

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300162		
法人名	(有)たつみ		
事業所名	グループホームほっと		
所在地	瀬戸市宮里町27-1		
自己評価作成日	令和4年11月5日	評価結果市町村受理日	令和5年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2392300162-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年ですと毎日の日課として、近くの商店街・緑に囲まれたお宮・神社・保育園などに散歩に出掛けて四季を感じていただく事に重点をおいていましたが、一昨年・昨年・今年と、コロナウイルスの感染防止対策の為外出の機会が少なくなりました。施設内での楽しみとして、午前中は、トランプ・坊主めくり等、午後からは体を使った運動や頭の体操等、そのほかには、毎日全職員が個別にケアプランに沿ったケアに力をいれ日々笑顔の絶えないように努力しながら取り組んでおります。最近では散歩・紅葉狩りなど状況に応じ少しずつですが外出しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナ禍により電話ヒアリングでの調査を実施した】
 経験年数の長い職員が多く、コロナ禍により様々な制限がある中、利用者が少しでも楽しく過ごせるよう、知恵を出し合い、チームワークで困難を乗り越えている。デイサービスの利用経験がある利用者が主体となったレクリエーション活動や、地域の敬老会と夏祭りを合体させた非日常のイベントなど、職員と利用者が持つ経験値を活かしながら支援している。
 高台に位置することから、心地よい陽射しが差し込むリビングでの活動も取り入れ、外出する機会が減ったものの、その代わりになるものを積極的に実施している。コロナの影響をつけつつも、利用者職員が共に考え、共に活動をする機会が増え、絆が深まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念である「普通の家で生活し楽しい人生を送る」を玄関に掲げ職員全員が把握し利用者様に向き合い安心していただけるよう支援しています。	職員の入れ替えがほとんどなく、連携しながら理念を実践している。利用者がどのような暮らしを望んでいるのかを職員が汲み取り、それを共有しながら、利用者の暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一昨年・昨年・今年とコロナウイルス感染防止の為散歩や外出が出来ず地域の行事も全て中止になり地域交流の参加は出来ていませんでしたが最近は散歩・紅葉狩など外出し楽しんでます。	地域行事が中止になっているため、地域活動には参加できていない状況であるが、散歩の時には近所の人と挨拶を交わしている。民生委員や近隣の保育園、老人会との付き合いは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染拡大の為外出の機会がなく、地域住民とのふれあいの機会もなく残念でしたが徐々に散歩の機会を増やしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染予防の為書面開催。施設内で実施予定日に職員で行い議事録をいつも参加して下さる方々に届けています。	今年度は、全ての運営推進会議を書面開催としている。開催案内や活動報告は直接持って行き、世間話をしながら、地域の状況を聞いたり、運営に関するアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・包括支援センターからメール・FAXなどでご指摘やどのような取り組みをしているか？等質問された時は即回答をして職員会議で話あっています。	市の担当者とは事故報告などをした際に、対応方法についての助言をもらっている。地域包括支援センターとも連携しながら、より良い運営ができるよう職員とも情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の時社内研修で身体拘束・高齢者虐待を2ヶ月に一度皆で勉強し共有している。現在一人の方が居室で休まれる時のみ柵を使用しております。玄関の施錠はその時々に応じ安全を考え行っています。	身体拘束にあたる行為かどうかを、事例などを用いた職員研修により振り返りをする機会を設けている。やむを得ずセンサーを設置する時には、職員で検討し、安全確保のために他の対応策がないことなどを家族とも話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待について再確認しているが職員から転倒の危険性のある利用者様には特に注意して見守りの強化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば是非参加したいです。今までに二人の利用者様が成年後見人制度を利用していました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約に関する内容を十分に説明し同意を得ている。契約に関して変更等があった場合はその都度同意書を交付して同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見や要望があれば気軽に言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。玄関の入り口に苦情相談受付箱を設けています。	直接顔を合わせてコミュニケーションをとることを大切にしており、玄関先やベランダでの窓越し面会を実施している。以前よりも話をする機会が減っているため、気軽に話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーションを取り話しやすい関係性を築くよう努めている。代表者には意見要望のみ伝えている。	管理者も利用者支援をしており、日常の業務の中で職員と意見交換をしている。コロナ禍をきっかけに、これまで以上に職員から積極的に改善提案が出るようになり、出された意見は運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすい職場環境を整えるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し研修の機会があればどしどしやって欲しいと言われている。社内研修は行っている。社外研修も(リモート研修)等受けられるよう努めていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸介護連絡協議会があるので、コロナの状況が落ち着き次第職員同志の交流が出来るように努めて行きたい。同事業者とは交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活の中で顔の表情など困っている事を感じ取って話しかけたりしながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安に感じている事など受け止め信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほととの理念に沿ってなるべく自宅の延長で好きな事など本人の意向に添えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が「家族ではないが家族のように」「自宅ではないが自宅のように」の思いを大事に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までは誕生日会など家族にも出席して頂いていましたがコロナになってからは施設の職員で行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関先に友人がきて暫し談笑の時間が持てたが中に入ることができない為職員が状況を説明しながら支援している。	馴染みの人との関係が途切れないよう、面会や電話は継続できるよう配慮している。馴染みの場所へ出向くことが難しい状況であり、地域の様子が写った写真集などを見ながら、思い出話に花を咲かせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルやヒガミなどあるが話を聞いたりして不満を解決できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処して医療の方に行かれた家族など外で遭った時には気軽に声をかけてくれます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や動きなど見逃さないように本人の希望を叶えられるよう支援している。	家族からも情報を得て、日常の関わりの中で利用者の思いを汲み取り、申し送りノート等で共有している。手芸や塗り絵が得意な人にはそれを活かして家族に贈り物をしてもらうなど、目標を持って取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は本人のしたい事好きなこと好きな食べ物など把握して対応するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の毎日の状態を把握してその人らしく一日が過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族にご要望などお聞きしています。職員とも会議で話し合いご本人の意向に添えるように作成しています。	計画作成担当者が中心となり、利用者や家族の意向、職員からの意見を基に介護計画を作成している。利用者の小さな変化や気になることを会議で出し合い、全員がチームとなって介護計画作成に関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議で個別の介護記録を確認し必要であればそく介護計画の見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な社会資源を活用できるよう情報を収集しながらその時々ニーズに合わせたサービスの支援を提案していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員がどのような社会資源が提供できるか課題として取り組んでいく。」		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の他に今までかかりつけの病院に家族が付き添ったり職員が付き添ったりして関係は継続している。	専門外来を受診する際は、家族と一緒に管理者も同行し、日常の様子を伝えて適切な医療を受けられるよう支援している。協力医、訪問看護、かかりつけ薬局の3者が、連携が取れる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週来て頂く訪問看護師に相談し適切な処置をしてもらい一人一人丁寧に見ていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院のソーシャルワーカーさんと密に電話などで情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族にはほっとでの看取りが出来る場合と出来ない場合を十分に説明している。その時期にきた場合は主治医や看護師家族とも相談しながら本人家族が満足する方向で支援していきます。	住み馴れたところで最期を迎えて欲しいと望む家族が多く、ホームとして対応できること、できないことを説明した上で、家族の意向に沿う対応をしている。看取り介護の経験が豊富な職員が多く、利用者と家族に寄り添いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは全職員が周知している。実践の訓練は今後考えていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	先日は地震と火事を想定した訓練をした。利用者が自らハンカチを口に当て真剣に取り組んでいる姿が見えた。我が施設が福祉施設になっている。コロナ禍の為協力体制は今年度は築けていない。	様々な災害を想定して、玄関先まで避難する訓練を実施している。実際に利用者にも参加してもらうことで、避難する際の課題に気づき、それをどのように改善していくのか検討している。	通勤途中の職員が被災した場合など、利用者支援にどのような影響が出るのかを検討して、運営に支障のない体制作りしておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と言う気持ちを忘れず言葉かけなど気を付けて無理強いをせず本人主導に気を配っている。	利用者の発言や行動を否定せず、その時の思いを尊重している。仕事に来ていると思っ ている利用者には職員としての役割を担って もらい、それぞれが誇りに思っていることを実 践してもらうよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のその日の表情や態度で理解し本人に聞きながら自分で決めてもらい無理じいはしない様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リクリエーション・体操など皆さんと一緒に 行って欲しい時もあります本人の希望に 任せています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理容を実施し皆さまにさっぱり として頂いています。 入浴時などは服と一緒に選んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為外食は難しいので誕生日や行事には普段よりひと手間かけています。 食べたいものなどを聞き楽しんで頂けるように努めている。	3食手作りの食事を提供し、利用者からは「美味しい」と好評である。利用者はできる範囲で調理を手伝っている。イベントでビュッフェスタイルの食事を提供し、選ぶ楽しみが味わえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人にあった食事形態で提供している。 水分の取れない利用者様にはコーヒーゼリーリンゴゼリー水ようかんわらび餅等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声かけをしている。 出来ない人は職員が介助し、歯の具合が悪い人は訪問歯科の時に見てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を心掛け排泄支援をしています。パット使用を減らすことにも繋がっています。	利用者個々の状態に合わせて排泄支援をしている。夜間はポータブルトイレを活用し、排泄の自立が継続するよう努めている。適切な排泄用品を選定するため、職員で検討し、家族の理解も得ながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るよう食材を足し食事メニューに気をつけて牛乳を飲んだり自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴。利用者様の肌や状況に応じシャンプーや石鹸を使用している。柚子湯しょうぶ湯など季節湯も楽しんでいる。	湯船にゆっくり浸かってもらい、柚子湯などの季節の湯も提供している。身体状況に合わせて、2人介助での対応もしている。入浴拒否には無理強いせず、声掛けの工夫などで、入りたい気持ちになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休憩してもらっています。安心して寝てもらって頂けるよう空調や寝具のお入れ替えなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は間違えの無いよう日時名前を声を出して確認している。訪看や薬剤師には気軽に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きな事など施設でも出来るよう支援しています。歌が好きな人にはCDを聞き歌えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は出来ておりませんが、施設の中での楽しみを提供しています。	人通りの少ない時間帯を選んで、近隣を散歩したり、おやつを買いにお店に行ったりしている。遠出の外出支援はまだ再開できていないため、ドライブがてら車内から紅葉を眺めて季節の移り変わりを感じてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設のほうでしています。 お小遣いは家族から預かっていますので欲しいものはいつでも購入できます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や子供さんにはいつでも電話や連絡は出来るようにしています。年賀状や絵手紙など書いて出している方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い居間で毎日過ごしています。 季節ごとに展示物を貼ったり壁画を作ったり利用者様と一緒にを行っています。	電話ヒアリングのため、見学なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日をフロアで過ごす事が多いです。椅子やソファに座りテレビを見たりトランプやゲームをしたり休養したい時は自由に居室で休まれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みのある家具や小物写真など飾り安心して過ごされています。	電話ヒアリングのため、見学なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが付いており歩行訓練に利用しています。居室の入り口には大きく表札が貼って解り易くしています。 トイレの場所も解りやすく表示しています。		